

東日本大震災復興プロジェクト

福島県飯舘村の現状と今度の復興について



JUDI都市環境デザイン会議 中部ブロック

日本で最も美しい村連合に加盟している飯舘村



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合に加盟するための条件

- 人口が概ね1万人以下であること
 - 地域資源が2つ以上あること
1. 景観－生活の営みにより作られた景観をいう
 2. 環境－豊かな自然や自然を活かした町や村の環境をいう
 3. 文化－昔ながらの祭りや郷土文化、建築物などをいう
- 連合が評価する地域資源を活かす活動があること
1. 美しい景観に配慮したまちづくりを行っている
 2. 住民による工夫した地域活動を行っている
 3. 地域特有の工芸品や生活様式を頑なに守っている

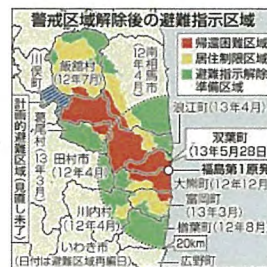
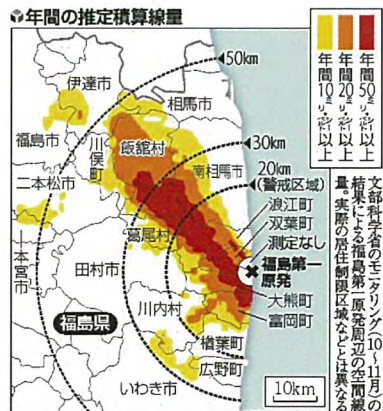


飯舘村は日本で最も美しい村



スローで「までい」（丁寧な）暮らし

福島第一原発事故により村民全体6000人が避難生活



原発事故は何をもたらしたのか。

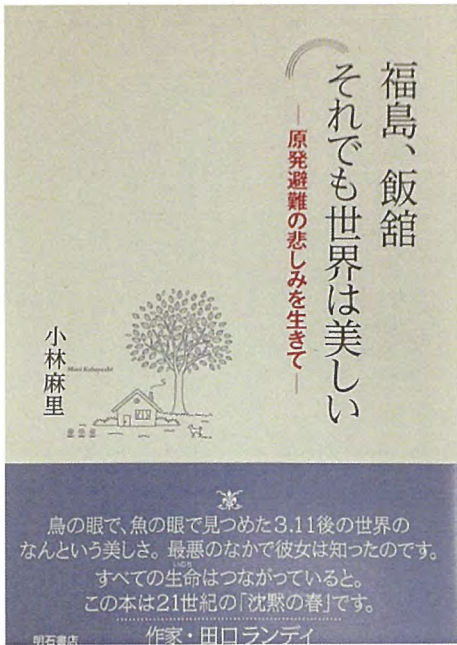
義理の妹の小林麻里さんと縁のある方に現地ヒアリング
飯舘村民の現状、心の苦しき、これからの生きがい、コミュニティについて



福島市の避難先（1戸建ての賃貸） 飯舘村の実家（持家で1人住まい）

飯舘村で2回の調査。

- 1回目：5月4日 家族で事前視察（小林麻里さん）
- 2回目：JUDI会員によるヒアリング
6月20日小林麻里さんヒアリング（義理の妹）
渡邊とみ子さんヒアリング（飯舘村の農家、福島で農業継続）
6月21日菅野義人さんヒアリング（飯舘村村議会議員）

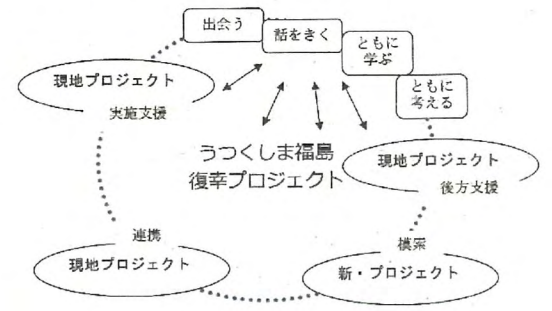


小林麻里
1965年名古屋市生まれ。愛知大学文学部史学科卒。バブル時代の20代は服飾雑貨の販売やパイヤーの仕事をする。バブル崩壊後に環境問題に目覚め退職。環境、社会、心などに関するイベント、映画上映会のスタッフを数多く務める。その間に、教えない教育に出会い「すくーるかえる」を開設。「すくーらくた」主催の『考現学』の会に参加、執筆と編集を学ぶ。2004年結婚を機に飯館村に移住。自然卵養鶏を営む夫と共に、野菜、果樹を育てて料理や加工品作りに精を出す農的暮らしに入る。

うつくしま福島・復興プロジェクト



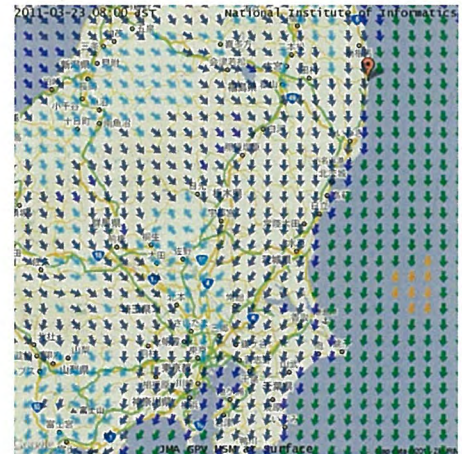
●うつくしま福島復興プロジェクトのイメージ



<現地プロジェクトに関わる主な関係者・協力者> (敬称略・順不同)
佐藤嘉一 (けるぶ農場)、小林麻里、鈴木勲 (株式会社ら・さんだランド)、渡辺仁子 (蓮実庵)、戸上昭司、根本鏡郎、有田幸司、平井孝志 (微生物的環境技術研究所) 地球の笑顔プロジェクト・経営品格塾・地域資源バンク研究会

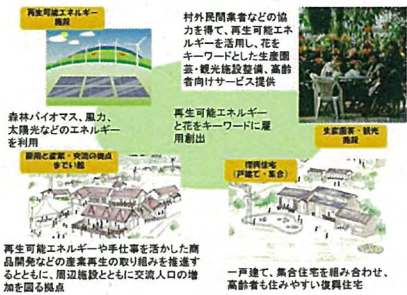


除染作業というけれど、5割だけ。数値が下がらない。効果なし。みんな効果ないと思っている。しかし、みんなはやろうと思っている。飯館村は代々続いた農家だ。きれいにしたい。その事につて否定はしない。しかし個人がどう判断するかである。私の友達が言うには小さな子どもがいる人は、帰れないという。そして飯館村のみんな友達はいなくなった。



壊れたのにまた同じものを、また余分なものをつくるのはどうか。また起きたら終わりだ。放射能の最大の被害は精神的被害である。放射能が来た時から、牛犬も。すべてなくなる。まだ福島だったらよかったのだ。これがもし東京だったら、映画のSFみたいなゴーストタウンのような状態になったにちがいない。

新たな拠点の整備イメージ



再生可能エネルギーを活用した花卉栽培施設のイメージ



村外子育て住宅の整備イメージ（飯館地区）

A案（戸建て+長屋建てで計画）

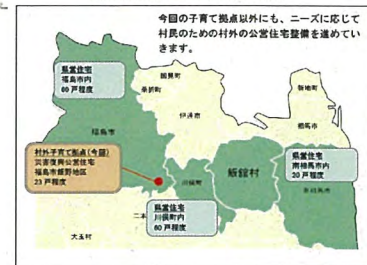
敷地面積	約4,600㎡
総戸数	約40戸
構造・建て方・階数	木造戸建て・2階建て・2階建て
住戸数	戸建て10戸 長屋建て14戸
住戸タイプ	戸建て：2LDK・2LDK・3LDK 長屋建て：2LDK・2LDK・3LDK
駐車場	戸建て：2台/戸・1台/台 長屋建て：200台/台・21台
設備設備	子育て支援施設、高齢者支援施設、150㎡

B案（すべて戸建てで計画）

敷地面積	約5,000㎡
構造・建て方・階数	木造戸建て・2階建て
住戸数	23戸
住戸タイプ	2LDK・3LDK
駐車場	2台/戸・40台
設備設備	子育て支援施設、高齢者支援施設、150㎡



今後の村外住宅の整備予定（案）



飯館村復興という事で、日本じゅうに、メガソーラー？ 色気がない。

復興計画。何かでかせがなくてはいけないのだが。

自然エネルギーといっても、地球に優しくはないと思っている。何もなくてほっとけば良い。

現在メガソーラーは計画段階。野菜工場をつくるなんて。なんかテーマパークになるのでは。

復興したのを見せたい。見世物にするのでは。

復興景気、除染もそうだが、なんか？



自分のイメージしていた

美しい飯館村はもう再生しないのか



日本で最も美しい村連合に加盟している飯館村の「村の暮らし」が崩壊

飯館村は人口 6000人の村、その美しい里山はあっという間にこわれてしまった。



人の手が入らないとあっという間に荒地になった。

景観をささえるのは高齢者。ハサガケをつくる。

「までい」福島弁で「丁寧にやっている」人はもういない。



以前の美しい飯舘村の景観をとりもどせるのか
同じものは手に入らない。ここにもどった場合の価値減少分

戦って奪い返すということより他にすることが、

国はこれぐらいしかやらないとのこと。

2年ぐらい待って、自分が壊れないように

原発関係の説明会では怒号が響く、**だれも何をすればよいかわからない。**

帰る前提で除染だが、70才の人はそこが住まいだったが、若い人はそうはいかない。

行政や業者の一方的な説明で、意見がでる。行政は個別対応ができない。

行政は公平さしかない。

選択肢も、少ないのはしかたがない。

全然別な方法がないものか。

そういう自分も知らず知らずに原発に加担して、突き進んでしまった。



震災前の飯舘村の「村の暮らし」はどうであったか。

「日本で最も美しい村連合」といってもいろいろな意見があった。

自然が美しいという美しさもあるが、ひとひとが生活する美しさを評価された。

しかし原発事故でその根本が失われた。

緑、田んぼのハザガケ、里山の風景、暮らしと自然の風景がそこにはあった。



400m x 500mの敷地 約20ha

村のコミュニティはどんなものだったのか

うまい距離感が、熊に縄張りと同じ。



獅子舞、後継者育成。消防団、青年団。10人ぐらいの組織だった。

地区歴史が 地区全体の家族の家系図がある。今では宝だ。



渡邊とみ子さん
福島生まれ かーちゃんのカ・プロジェクト代表

故郷の味

福島の「福幸」のために
東日本大震災と原発事故で生まれ育った故郷を後にしました。
農地も加工所も失いました。仲間もちりちりになりました。
でも、もう負けてはいられない。
あぶくま地域の復興のため、
「かーちゃん」たちが立ち上がりました。



自分は諦めない。飯館村で一番最初に、動いた。

今の畑で、やるしかない。あぶくま茶屋を始めた。

「かーちゃんのカ・プロジェクト」が立ち上がった。

広く300人ぐらいのサポーターがいる。今日も朝市に出た。

震災当時は、名古屋からの応援隊もきた。
若い人たちの環境応援隊。しかし 指示待ちになっていた。
名古屋大学の応援隊。若い学生は自己紹介でみんな泣いていた。
仮設住宅は年寄りばかり。借り上げの人は情報がない。

かーちゃんのカプロジェクトがきっかけで、宮城県では、かがの力。
ワークスコープ。連携して村社会をつくらせている。飯館村は負けがない。

故郷はいま
あぶくま地域は、福島県の東部、阿武隈低地と八景山脈からなる26町村にまたがる巨大な地域です。...
あぶくま地域と隣の県

プロジェクトのはじまり...
このプロジェクトは「福島大学が福島県産地産物」が中心の10月19日に立ち上げました。

プロジェクトのこれから
「かーちゃんのカ・プロジェクト」では、「かーちゃん」たちが、福島県産地産物「かーちゃんのカ」のネットワークを構築し、販売を、今の思いを届けたいという「かーちゃん」にしました。

(参考) 放射性核種に係る日本、各国及びコーデックスの指標値 (単位: Bq/kg)

国・地域	放射性ヨウ素 ¹³¹ I				放射性セシウム ¹³⁴ Cs ¹³⁷ Cs			
	飲料水	牛乳・乳製品	野菜類	その他	飲料水	牛乳・乳製品	野菜類	肉・魚・鳥・その他
日本	300	300	2,000	魚介類 2000	200	500	500	500
Codex	100	100	100	100	1,000	1,000	1,000	1,000
シンガポール	100	100	100	100	1,000	1,000	1,000	1,000
タイ	100	100	100	100	500	500	500	500
韓国	300	150	300	300	370	370	370	370
中国	-	33	180	魚介・水産物 100	-	330	210	260
香港	100	100	100	100	1,000	1,000	1,000	1,000
台湾	300	55	300	300	370	370	370	370
フィリピン	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
ベトナム	100	100	100	100	1,000	1,000	1,000	1,000
マレーシア	100	100	100	100	1,000	1,000	1,000	1,000
米国	170	170	170	170	1,200	1,200	1,200	1,200
EU	300	300	2,000	2,000	200	200	500	500

(注) Codex については、放射性ヨウ素の欄に記載した数値(1000)は、Sr90、Pu239、Pu241、U235の合計。放射性セシウムの欄に記載した数値(1000)は、Sr90、Pu239、Pu241、Cs134、Cs137、Cs138の合計

(参考)

ICRP 国際放射線 防護委員会	ヨウ素の防護基準 (1000 Bq/kgの食品につき)	セシウムの防護基準 (1000 Bq/kgの食品につき)
ICRP	50 Bq/kg (1000 Bq/kgの食品につき)	50 Bq/kg (1000 Bq/kgの食品につき)
米国	50 Bq/kg (1000 Bq/kgの食品につき)	50 Bq/kg (1000 Bq/kgの食品につき)
EU	300 Bq/kg (1000 Bq/kgの食品につき)	300 Bq/kg (1000 Bq/kgの食品につき)

※各国は自国の食品摂取量等を考慮して食品別に摂取制限に関する指標を定めている。

かーちゃんのカプロジェクト商品の放射性物質検査について

「かーちゃんのカプロジェクト」では、安心して食べてほしいという「かーちゃん」たちの願いから、プロジェクトで扱う商品について「放射性物質検査」を実施しております。

独自の安全基準とロゴマーク

「かーちゃんのカプロジェクト」では、世界でもっとも厳しい放射性物質検査を行っています。放射性物質検査の結果、1kgあたり20ベクレル未満の食品にのみ「かーちゃんのカ」のロゴマークを貼付しております。

食品・放射性物質検査の結果
「かーちゃんのカプロジェクト」では、放射性物質検査の結果、1kgあたり20ベクレル未満の食品にのみ「かーちゃんのカ」のロゴマークを貼付しております。

大豆

大豆の収穫の様子
大豆の収穫の様子

大豆 200g 500円
おぼろめい 500g 500円

手作り万能たれ

自家製 1年
広地域産 産地とみ子

いも床

自家製 1年
広地域産 産地とみ子

豆菓子

豆菓子の収穫の様子
豆菓子の収穫の様子

豆菓子 200g 500円
おぼろめい 500g 500円

自分達は立ち上がったが、補償がでないと国の回答だった。

国会責任。議事録を送ってくださいといった。

農作物の3/4が換体。1/4が商品。一瞬あきらめた。

しかし飯館の名前を出して売った。自分で基準を決める。

超えた場合は、犯人扱いになる。生産者の立場を大切にしたい。

この野菜は飯館の種を継いでいる。

ブランドにしようとしている。

食品を扱うので、生産者と消費者の関係は常に気を使っている。

放射線物質が1000 ベクレルがアメリカの基準、

自分はその基準を20 ベクレルとして福島の基準とした。

毎日農作物の放射線量を計って、その調査結果のファイルも何冊も。

1kgの検体だ。かなりの重みである。放射線量 100が今の日本の基準。

そうすると福島のものが一番安全である。



村議会議員
菅野義人さん



6月21日のヒアリング、飯館村の築100年の家で一時帰宅



菅野さんが手がけた小学校の校庭も草ぼうぼうに



国の補償はどういう状態なのか。

飯館村の農業生産額が17億円（表向き） 除染費用が3000億円

6000人の人口で計算すれば5000万/1人の計算になる。

数字で表せないが、人が住み、くらしがあったという事がなくなってしまった。



除染作業とはどういうものなのか

放射能対策として除染をするという事は、

人間の居住エリア周辺の5cm土をすべてはぐことである。

そして、ビニール袋につめて、積んでブルーシートをかぶせておく事だ。

それを村ごとやるとどうなるか、

防風林の役目をしている、周辺の木をすべて切り、土を剥ぎ取り、すべて山を丸裸にして、

そのへんに、シートにかぶった黒い袋が積まれた光景を作り出すことである。

土を剥ぐエリアはほんの数メートルの周辺で、その外周や森の中はそのまま。

それでもどれだけ効果があるかわからない。

雨など降って、風でも舞って、線量がもどってしまうば、意味がない。

野生の動物たちはその放射線の中でくらししているのだ。



飯舘村(計画的避難区域)の放射能除染[目標値]

飯舘村の放射能汚染の状況

- ・ 飯舘村では20mSvを超える可能性があるとして計画的避難区域に指定し、住民に避難を求めている。
- ・ 飯舘村の土壌の汚染は、大部分の地域で国が定めた耕作制限の限度5,000ベクレル/kg以上。

住民が村に復帰し、生活できる条件

- ・ 年間の被ばく線量が1~20mSv範囲であること。
- ・ 耕作、牧畜等を行うためには土壌汚染は5,000ベクレル/kg以下。

住民が村に復帰し、生活するために成すべきこと

- ・ **住居、田畑、山林等の放射能を除去し、放射能濃度を下げる。**
(放射能汚染は、Cs-137(半減期30年)、Cs-134(半減期2年)によるもので、自然の減少はほとんどなし。)

除染といっても農村は都市部とはちがう。
宅地と森のすこし送ってそれで終わりというわけにはいかない。
実験でははいだ方が線量はさがる。
人によっては、大切な木は残してもらいたいという事で対応するが、そこは数値が下がらない。
イグネ、(防風林)にはセシウムがある。木が残ると効果が上がらない。
放射線量を下げておいて、戻れるようにしたい。

客土をして、実験でデータでは8割さがった。草野の集落での実験。

表層の土をはいだあと、客土をしても、土が流れる。

草を生やすのがよいが、その先の樹木や草は農林水産省の管轄。国という組織は別々。

空間線量率：13~15 μ Sv/h 表面20~170 μ Sv/h



放射線レベルについて

当面の目標として、5ミリシーベルト/年、

1マイクロシーベルト/毎時を超えないような目標値。

20ミリシーベルト/年 以上で計画的避難区域となっている。

長期的な目標は1ミリシーベルト/年。

大雨が、あればスギの葉が吹き込む。植物をどう再生するか。保水力、生態系がどうなるか。

実験で除染後室内でも4.3~3.1 μ Sv/h

飯舘村は広大な森と畑や田んぼ、牧草地で成り立っている。

都会人は自然が大事と思っていが、それが破壊されたのだ。

飯舘村は水を供給している村。

山林の除染はどうするか。治水の問題もある。

山の山菜、キノコの利用も無理。

国は山はやらない方針。国の予算では山は除染しない。

自然の力をかりるしかない。自然循環のなかで、戻ろうとする。

農業をやっている人、時間を待つ。

離散した村民は戻れるのか、戻れないのか。

戻らなくてはいけない人、戻りたくても戻れない人、もう戻れないという人

それぞれに話を聞いて、飯舘村の再生を考える。

飯舘村が行った村民アンケート結果より

Q6-3 5年後に農業(家庭菜園含む)を再開するか

	人数	パーセント
1. する	0	0.0
2. できればする	4	9.1
3. できればしたくない	1	2.3
4. やらない	25	56.8
5. わからない	11	25
無回答	3	6.8
合計	44	100

Q8 除染や廃棄場などの除染決定過程に対する評価

	人数	パーセント
1. 非常時なのでやむをえない	1	2.3
2. 非常時の判断を超えていて許されない	37	84.1
3. その他	3	6.8
無回答	3	6.8
合計	44	100

Q7 村民参加による除染作業に対する評価

	人数	パーセント
1. 賛成	1	2.3
2. どちらかという賛成	0	0.0
3. どちらかという反対	5	11.4
4. 反対	25	56.8
5. わからない	8	18.2
6. その他	3	6.8
無回答	2	4.5
合計	44	100

Q9 原発事故以前の生活に戻る可能性

	人数	パーセント
1. 可能である	0	0.0
2. 可能性は高い	0	0.0
3. 可能性は低い	9	20.5
4. 可能性はない	25	56.8
5. わからない	7	15.9
無回答	3	6.8
合計	44	100



農業を継続する人は、農業ができる場所を提供してもらえる場所が必要。
高齢過疎化の問題を抱える農村は多い中、
数名での移転で別の場所で農業ができる場所はないだろうか。

飯舘村がきれいになるには時間がかかるであろう。
もしかして50年はかかるかもしれない。
子供が住めるような状態にならないと村として機能しない。
多世代がいて村の生活、習慣、文化を引き継いでくれる人がいる。
若い人がいないと村は滅んでしまう。
あっと言う間になにもなかったようになる。
起きたらにげればいいという考えはよくない。前の生活できない。
戻らざるを得ない人もいる。人によって賠償金が違う。
お金がなくても暮らしていけた地域。
ささえ合いがあったのが、なくなってしまった。

だれか一人は残らなければならないと思う。
自分が残らなければならない。



村でのコミュニティは一定距離を離れて暮らしている。

お互いに助けあって生きるくらしである。

森や野菜、草花に囲まれて生きている人であるが、町では暮らせない。

逆に、町で暮らしている人が、農村でくらしにいけるか。
(都会の慌ただしい暮らしに疲れ、農村生活にあこがれをもつ人はいるが)

集まって住む、集まってくらししている=コミュニティは一つの考えであるが

農村コミュニティは物理的に離れて住んでいる。

離れて住んでいるが、お互い助け合い、集まる時は、かなりの長い時間の付き合い。

個人より全体意識の高いコミュニティ、これが農村コミュニティである。

(全体意識とは地域、家族、親戚、同じ学校の先輩後輩、祭の上下関係)

若い人は、離れて住んで、人にあまり干渉されない暮らしである。

お互い知ったものどうしが助け合い、

自然の美しい暮らしにあこがれて、

無農薬、体によいものを、地産地消、ロハス、エコを求める人である。

しかし長時間拘束されたり、他人からの干渉を嫌う。

新しいタイプの農村コミュニティである。

古くからのコミュニティにいた人も、

農業をやっていく上で広いネットワークをつくって活動している人がいる。

その人は先導してコミュニティを継続できている人である。

その人も若者のコミュニティも共感できる。

【村の移転・移住／帰村を望まない人への対応など】

世代を超えてもいつかは故郷に戻ろうという長い時間のかかるプロジェクトが

この飯舘村のモデルになるかもしれない。

政府予算で2～3年でという勝手な予算の都合での解決策では、この問題は解決しない。

天明の飢饉の時は飯舘村の人口は3世帯しかいなかったという。

しかし長い時間をかけて6000人になった。

村はそんな長い時間の中で動いている。

世代を超えて離散した人々がコミュニティを継続させながら、

50～100年後に戻るといふ気の長いプロジェクトそれは何か。

- ・戻ることはばかりでなく、見切りをつけて**他で生活を始めたい人への支援**をしてほしい
- ・**移住や新しい土地**に行けるように考えてほしい
- ・**村全体で住める場所さがし**
- ・除染をすれば戻れるような話をやめてほしい 不可能なら不可能で、**新しい村を作る事**を進めるべきでは？
- ・**村全体をどこかに移転**を考えたが村民は安心して暮らせると思う
- ・**糸長先生（日本大学）の案**に取り組むこと

日本大学糸長先生の避難村の案



- 飯舘村共同農場 (一次産業)
- 飯舘村共同工場 (二次産業)
- 飯舘村共同市場 (三次産業)
- 仮設飯舘村役場と子供館
- 避難村民の避難先に関する情報システム

■ まいたな避難村、飯舘分村 及びネットワークの構築 (災害エコビレッジネットワーク構想)

避難先で、落ち着いた生活と生業ができる環境を、早急に整える。中・長期的期間の滞在もあり得ることを想定し、避難環境は、仮設の村を想定した**総合的な避難環境**を整備確保する。その場合は、避難先での居住環境を家族で確保できるようにする。集落単位でまとまった公営住宅等に入居出来れば良い。それが難しい場合で分散居住になっても、村人が協働で動く場所、交流場所を数力所用意する。

まいたな避難村は、数力所建設してもよい。広大な土地を確保することは、現段階では不可能であろう。放射線量率の低い、**福島県の西部、県外の安全な箇所、特に、安心して農業のできる箇所を探し、**そこの自治体と協力して、本格的な、まいたな避難村、分村を建設する。今までの飯舘村のまいたな村づくりの発信基地として意義を持たせる。数力所あってもよい。

我々が考えるのは、50年～100年の移住先の住まい 子共、孫の世代で飯館村に帰るといいう長いスパン

飯館新村をつくる案は実際どのようなものになるか。
日本で最も美しい村の再現をする。その暮らしそのものを再現する。
新しく再編された村のコミュニティ、持続可能なコミュニティの再構築。
長屋案に対して散村案。離れて暮らすコミュニティ。
離れてもかなり近い農村コミュニティ。

農業生産から考えた暮らし。
専業農家で米作を行えば1世帯で、20ha～30haの耕作地が必要である。
500m x 500m = 25haの広さ。路地野菜では3ha程度。
日本の平均稲作面積は1haで、ほとんど兼業農家。
飯館村は半分が専業農家であった。20haの農作地を保有した農家の風景。

避難村では農業を専業にはできない。広さが足りない。
集まって住むという意味は、県営の公共事業を想定している為である。
バラバラに住むという選択肢はないのか。
住宅中心に考えるのではなく、農地を確保するかを第一優先に考え、
住まいは農村部で中古住宅のリニューアルで対応できないか。

老夫婦でもう住まなくなっている大規模農家は多いはず。

北海道の広大な敷地でも後継者がいない農家は多い。
そのようなマッチングはできないものか。離れていても常に連絡が取れるのは現代。

小林さんが避難している民家（借家）



隣も空き家になっている。

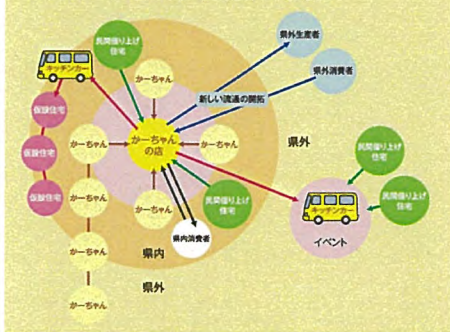


避難先も美しい農村風景があった。



プロジェクトのこれから

「カーちゃんのカ・プロジェクト」では、「カーちゃん」たちの力・知恵・技術を活かす場を「カーちゃんのカ」をオープン。そこを拠点にキッチンカーなどを供して各地のイベントに出陣したり、仮設住宅へ「カーちゃんのカ」を届けたりして、「カーちゃんのカ」で地域を元気にしていきます。



カーちゃんのカ・プロジェクトのネットワークを活かす

- 農業で生きがいをつくるプロジェクトである。仕事があって住まいがある。
- まず農業で生計をたてる仕組みをつくる事。
- その農家毎の新しいネットワークをつくり、拠点づくりを
- 県外ネットワークの構築では、都心部のネットワークで都心での販売も可能に

「カーちゃん "カ" のプロジェクト」を通して福島の復興（福幸）を支援する。

「自然と共にあった暮らしを突然奪われ辛い日々だけど、仲間とつながればなんとかなる！」カーちゃんたち(女性農業者)は互いに手をとり立ち上がったあぶくま地域の味、カーちゃんの味をみんなに食べてもらって福島を元気にしたい。

- 農産加工品の加工・販売
- カーちゃんのカの笑顔弁当づくり
- あぶくま地域の食文化伝承

カーちゃんのカのプロジェクト活動

- 食の安心、安全
- 無農薬
- 地産地消、ロハス、エコ
- これからの農業
- 農村コミュニティのあり方
- 除染作業と自然の力

これらの課題と悩みについて、JUDIのネットワークを活用し、多くの人たちに現状理解と交流支援の輪を広げる。

◇愛知・岐阜・三重においてアピール度の高い交流拠点の場の提供をする。
福島産地「故郷の味」販売を行い、福島の実況報告PRなど地元との対話交流を持続的に
行う「モノとこころ」の支援を行う。

～支援交流拠点候補地～

◆オアシス21（名古屋市）…栄公園振興(株)

栄の中心地である震災復興事業で誕生した久屋大通に位置している。オアシス21のシンボルでもある大屋根「水の宇宙船」の下に広がる約850m²の吹抜け多目的スペースはコンサートや展示会などのイベントに最適な劇的空間となっている。



◆円頓寺商店街（名古屋）…西円頓寺商店街・円頓寺本町商店街・円頓寺商店街振興組合
円頓寺（商店街）は名古屋駅と名古屋城のほぼ中間に位置し、大須などとともに昔は名古屋でも有数の繁華街であり、信長が清洲から名古屋に移ってきたときに、ついてきた商人の町である。今も名古屋の下町の雰囲気残り、毎年7月に円頓寺本町商店街と共同で開催される円頓寺七夕まつりは商店街と地域の住民による手作りのお祭りとして行われている。また、近くには古い蔵や尾根神様の残る保存地区「四間道」がある。



◆神田町円徳寺（岐阜市）…神田町六丁目商店街振興組合

織田信長ゆかりの寺。楽市楽座発祥の寺です。古くから市街のメインストリートとなっている。



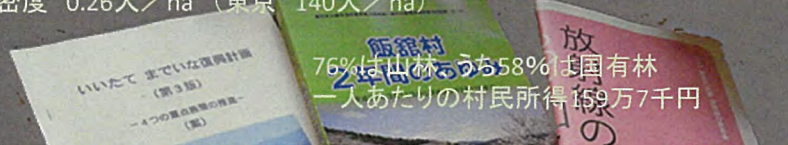
◆桑名市寺町通り商店街（桑名市）…寺町通り商店街振興組合

50年以上前から、三と八のつく日に行われる『三八市』など、地域に密着した商店街づくりを行っている。



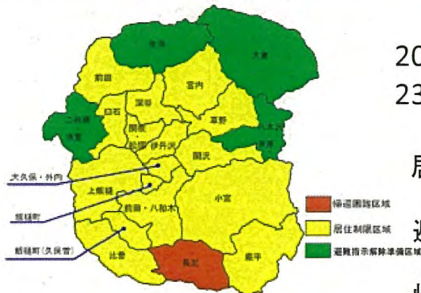
飯舘村

標高200～600m 面積231平方km 人口 H22.10.1 6209人(S30年は11400人)
人口密度 0.26人/ha（東京 140人/ha）



76%は山林のうち58%は国有林
一人あたりの村民所得159万7千円

* 3月30日発行の「広報飯舘おしらせ版・東北関東大震災号外第1号」にはじめて空間線量が公表された。<村役場付近の線量3月15日午後6時20分44.7μSv/h>



20の行政区域(町会、自治会に相当)
23.0717～ 3つの避難指示区域

居住制限区域 15区域
(年間20 mSv 3.8μSv/h以上)

避難指示解除準備区域 4区域
(年間20mSv 以下)

帰還困難区域 1区域
(年間50mSv以上、5年超でも20mSv以上)

復興の計画・設計に関わることの意味

計画者、設計者として未来を描くだけでなく、自らも加害者であることを自覚し、現時点でのコミュニティ(共時的)だけでなく未来や過去のコミュニティ(通時的)にも説明できる計画を考える必要がある。

「私は被害者であるけれども加害者でもあると思っている……政府や東電が補償できるのはせいぜい人間に対してだけで、それすら十分にはできない」(小林麻里)

「それは、『責任主体としての人間が、チツソにも政治、行政、社会のどこにもない』ということであった。そこにあったのは、システムとしてのチツソ、政治行政、社会にすぎなかった。……私もまた欲望の価値構造の中でおなじことをしたのではないか、という、かつてない逆転の戦慄に、私は奈落の底に突き落とされるような衝撃を覚え狂った」(緒方正人)

「何故このような巨大な施設を……その倫理性についてである。そしてその説明は現在の我々、将来の都民だけでなく大正の市民にまで及ばなければならない」(横文彦)

森や川、農地の除染／自然と村のつながりの再編
しくみ(システム)をつくる近代的な計画という度量衡だけでは
村の復興は計れないかもしれない

・除染は、科学的に効果がある方法が考案されてきている。

「100m四方の園庭の土の交換……表面5センチほどの土を除くだけで、かなりの
線量の低下がみられた」 (児玉龍彦)

・農業や畜産に従事するひとにとっては、人間以外の動植物と
共にある生活を行ってきた。

人間環境だけの除染では今後の生活は見えてこない。

「畑はどうだ。こちらでも表土を剥ぎ、深耕などが有力手段だろう……ブルーベリーは
永年性……浅根性で表土から4～5センチの深さの部分に根が広がっている」
(市澤秀耕／極久里)

「蛸もおたまじゃくしもトンボもサンショウウオも、放射能に汚染されてもちゃんと生まれて
きてくれて、私がいなくてもこの場所で命の営みを続けている」 (小林麻里)

復興に到る、複層的なコミュニティの復旧

仮設住宅(建築基準法上は住宅ではない)は2年の期限を超えて使われている
仮設住宅の配置、立地も応急的なものであった

村に「戻る?」「移転する?」前の段階を、まず計画する必要がある

発災から復興にいたる中間としての復旧の時期—建築学会大会PDでは2段階避難、
民間賃貸の活用のしくみなどが提唱されていた— (AIJ2013大会PD「日常へ」鈴木浩)

「原発事故から2年……多くの人々が「原発避難」から「原発難民」になっていると感じる……
避難後二年が過ぎる。仮設住宅の耐用年数はどれくらいなのだろうか。飯舘村の場合、
「仮設後」の見通しは「除染して帰る」ということしか聞こえてこない。……「除染して帰る」だ
けでない「仮設後」の暮らしについて、村や県、国も、……何らかのオプションを準備すべき
時期に来ている。そして僕は、二拠点定住を探り、歩み始める。」 (市澤秀耕)

耳を傾けること そしてゆっくり進めること

三陸海岸地域調査報告

2013年9月15日

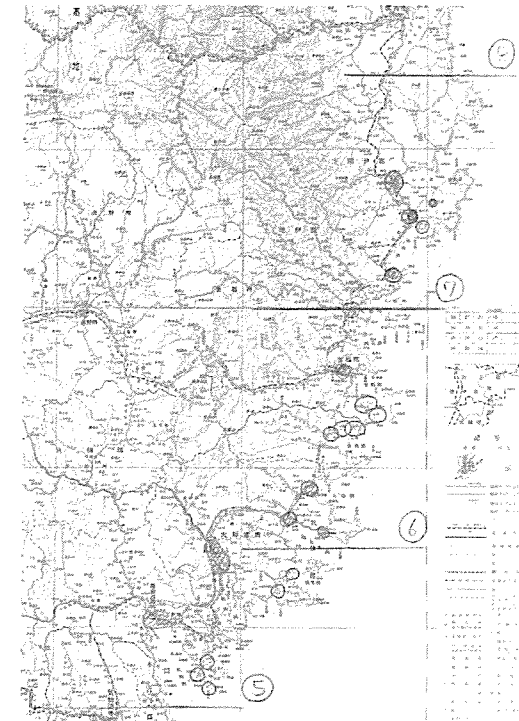
中部ブロック 柳田良造

調査地域

調査時期

2011年5月

2013年7月



三陸地域 明治以降の4大津波被災

三陸沿岸14市町村の過去4大津波の被害比較

- 明治三陸地震 明治29年(1896)
M8.2~8.5 津波高(綾里湾) 38, 2m 死者21, 915人
- 明治三陸地震 昭和8年(1933)
M8.1 津波高(綾里湾) 28, 7m 死者3, 041人
- チリ地震津波 昭和35年(1960)
M9.5 津波高 5~7m 死者99人
- 東日本大震災 平成23年(2011)
M9.0 津波高(最大遡行高) 37, 8m 死者18, 537人

	明治三陸		昭和三陸		チリ津波		2011年*	
	流失全壊	死者	流失倒壊	死者	流失全壊	死者	全壊	死・不明
久慈市	180	494	117	27	1	0	238	4
野田村	80	260	62	8	9	0	450	38
善代村	76	302	79	137			0	1
田野畑村	53	232	131	83			209	36
岩泉町	132	364	97	156			177	7
宮古市	832	3010	589	1127	99	0	3669	901
山田町	814	2124	551	20	133	0	2845	939
大槌町	684	600	483	61	30	0	--	1714
釜石市	1192	6487	606	728	28	0	3188	1357
大船渡市	806	3174	694	423	384	53	3629	463
陸前高田市	245	818	242	106	148	8	3159	2293
気仙沼市	486	1887	407	79			8383	1536
南三陸町	475	1234	187	85	601	38	3877	1174
女川町	10	1	56	1	192	0	3067	1156
計	6065	20987	4381	3041	1625	99	32691	11529

*5月10日現在

津波による人的被害の規模を決める主要因

- 1 津波の高さや流速などの要因(外力強度)
- 2 住民の危険認識,地区防備態勢,警報発表・伝達の状況,震度・余裕時間・時刻等の諸条件などの要因(避難対応レベル)
- 3 海岸低地の居住・利用等の要因(市街地条件)

地域人口の変遷

明治津波から昭和津波までの37年間,この地域の人口はほぼ30万人のままで,ほとんど変化しなかった。
相次ぐ厳しい冷害や世界的な不況がその背景にあったから。

昭和津波当時の人口

宮古町と大槌町が人口1万をわずかに超えるだけで,釜石町,大船渡町,高田町などは,同じ数千人規模にすぎなかった。

現在では人口は約3倍に増大したが,その大部分は津波の危険がある海岸低地に市街地が大きく展開したことによる増大である。

海岸低地の居住・利用の市街地拡大が被害の大きな要因

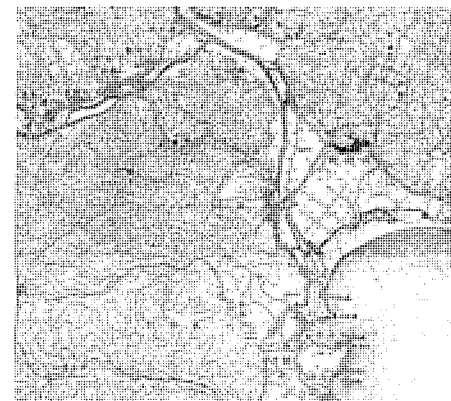
陸前高田

大槌町

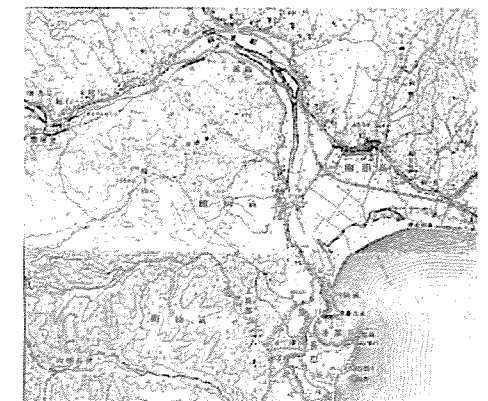
南三陸町(志津川町)

女川町

陸前高田



大正3年(1914)



昭和8年(1933)



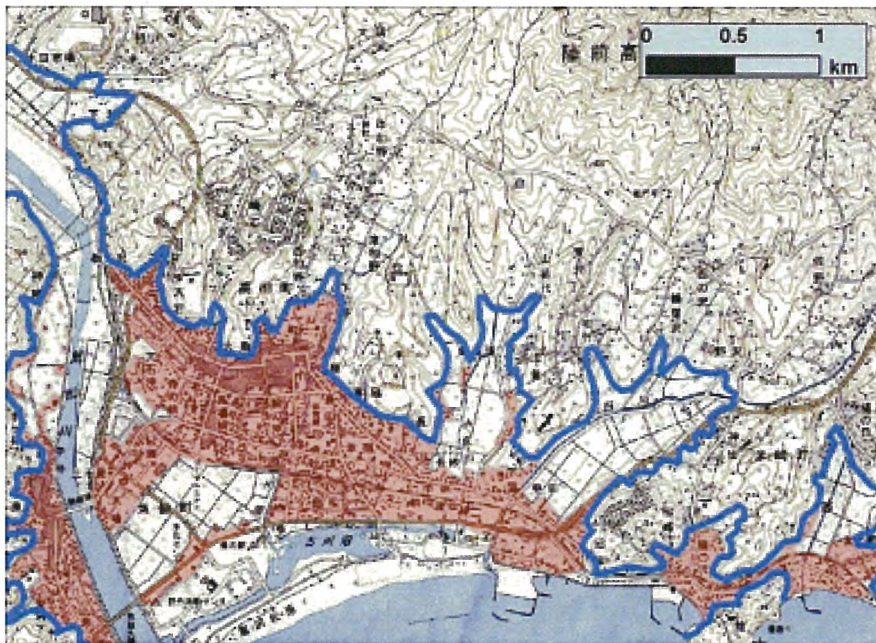
昭和24年(1949)



昭和42年(1967)



3. 11での津波浸水地域と被害地域マップ(「地理学会」作成図を引用)

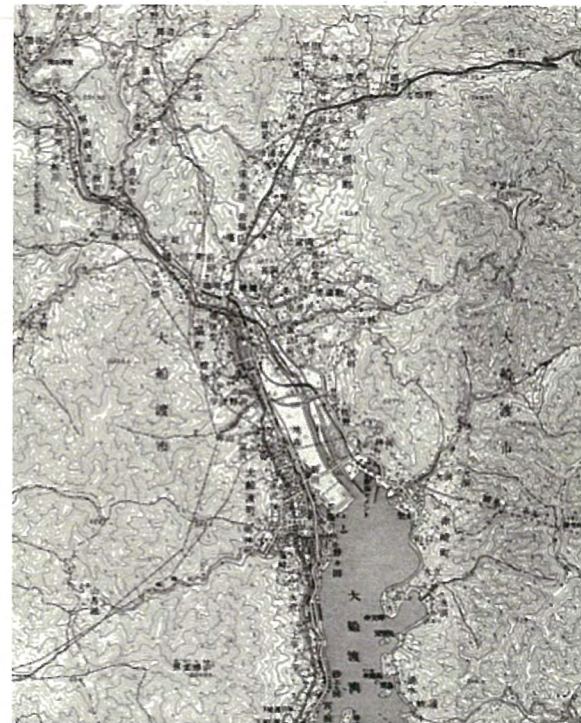




大船渡

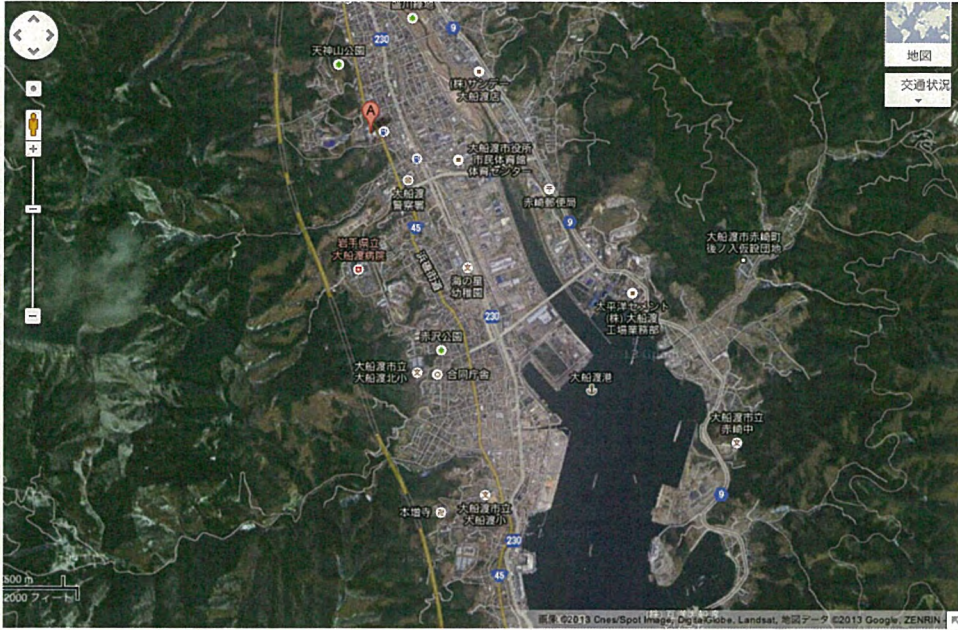
昭和19年(1944)

大正3年(1914)



大船渡

昭和44年(1969)



都市市街地復興の考え方

- 1 コンパクトな市街地+人口地盤
- 2 低地→農地化
- 3 海岸部分 最小限の生産施設
+造園化された土塁ベルト

坂出市 人口土地プロジェクト
(1962~68)



図3 断面図

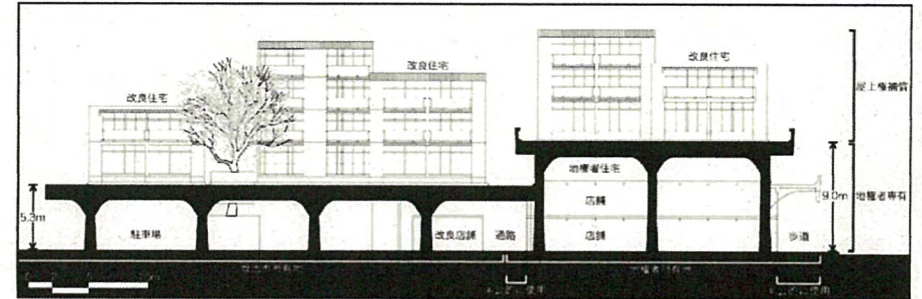


図2 配置図・平面図

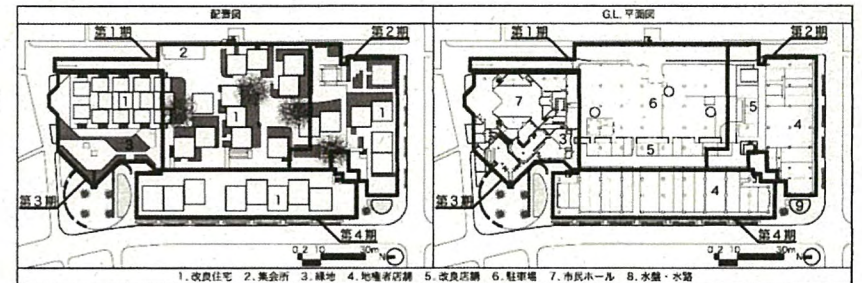
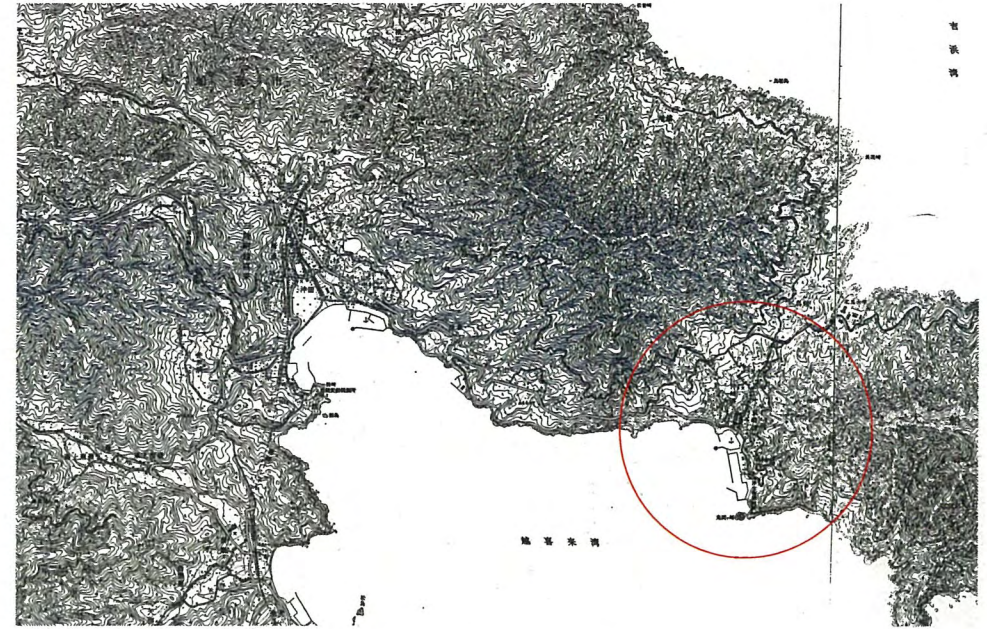


図6 完成断面 (1984年)

明治の教訓はいかされたか
(漁村集落)



大船渡市 越喜来 崎浜集落







高台移転の場所確保が困難な集落

